資料集・戦時下「日本仏教」の国際交流

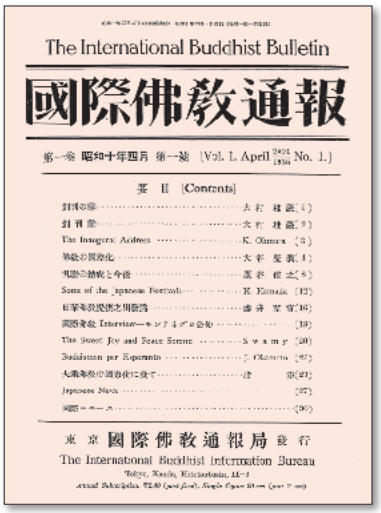
【編集復刻版】

一九三三年三月、国際連盟を脱退した日本は、やがて出口の見えない戦争へと突き進んでいった。国際的に孤立した状況のなかで、日本仏教の関係者たちは、欧米の仏教者・研究者との連絡の緊密化を図り、アジア諸国の仏教勢力との協力提携を目指した。

その事業は、外務省や文部省、軍部からの支援を受け、基本的に国策に順応する方向性をもっていたことは否定できない。しかし、広範囲かつ大規模に及ぶその事業には、さまざまな立場の人物が関わり、その活動も多様な側面を有していた。

いま、日本の民間レベルの国際交流のあり方を問い、日本仏教の国際化を考える上で、これらの事業の検証が求められているといえよう。

本資料集は、そのための必要不可欠な文献を収録したものである。


The International Buddhist Bulletin

國際佛教通報

第一卷 昭和十年四月 第一號 [Vol. I. April 1935 No. 1.]

目 次 [Contents]

東京 國際佛教通報局 發行

The International Buddhist Information Bureau

◉龍谷大学アジア仏教文化研究叢書4

編者

龍谷大学アジア仏教文化研究センター

「戦時下「日本仏教」の国際交流」研究班

中西直樹（代表）・林 行夫・

吉永進一・大澤広嗣

推薦

赤松徹眞・楠 淳證

不二出版

第Ⅲ期

中国仏教との提携　全2巻

体裁＝B5判・上製・総740頁

定価＝本体46、000円＋税

刊行＝2017年9月

内容見本

中西直樹・近藤俊太郎 監修

令知会雑誌 全7巻

西洋化とそれに伴うキリスト教の進出に対する僧侶たちの危機感を背景に、仏教界は明治二〇年代に改革の時代を迎えた。そうした仏教改革の気風の胎動として、明治一〇年代後半から僧侶による結社活動が活発化するなか、島地黙雷、日下痴龍、吉谷覚寿、多田賢住らは令知会を結成し、明治一七年四月に機関誌『令知会雑誌』を創刊した。令知会は当時の代表的な仏教結社のひとつであり、『令知会雑誌』はその後の仏教系メディアの先駆的位置にあるといえる。

収録＝第1号～第95号（明治17年～25年）
推薦＝大谷栄一
体裁＝A4判・上製・総約3、030頁
定価＝本体175、000円＋税

中西直樹・近藤俊太郎 編著／中川洋子 執筆

令知会と明治仏教

本書は令知会機関誌『令知会雑誌』を研究の対象とし、知られざる明治初期・中期の仏教界の様子を探る解題論文集である。

体裁＝A5判・上製・200頁
定価＝本体2、700円＋税

中西直樹 編・解題

仏教海外開教史資料集成

本資料集は、ハワイ・北米・南米における膨大な仏教開教関係の記録であり、仏教教団の海外の現状と歴史を検討するための、必要不可欠な資料集である。

推薦＝大村英昭・坂口満宏

〈ハワイ編〉全6巻
体裁＝A5判・上製・総3、642頁
定価＝本体120、000円＋税

〈北米編〉全6巻
体裁＝A5判・上製・総3、372頁
定価＝本体120、000円＋税

〈南米編〉全3巻
体裁＝B5判・A5判・上製・総1、526頁
定価＝本体60、000円＋税

中西直樹 著

仏教海外開教史の研究

本書は『仏教海外開教史資料集成（ハワイ編・北米編・南米編）』に収録した解題と収録内容一覧を一冊にまとめたものである。

体裁＝A5判・並製・120頁
定価＝本体2、000円＋税

菊池正治・髙石史人・中西直樹 編・解題

戦前期仏教社会事業資料集成 全13巻

明治末から大正・昭和戦前期、仏教が社会事業に果たした役割は大きく、各教団による事業、僧侶ら仏教者が設立した施設、寺院に附設された施設は膨大な数にのぼる。本資料集成では、浄土真宗本願寺派、真宗大谷派、浄土宗をはじめ曹洞宗、日蓮宗、真言宗の各教団関係機関の発行した社会事業の要覧・便覧・報告書等を収集整理し、収録した。戦前期仏教社会事業の軌跡を、国家目的遂行に利用された側面も含めて検証し、仏教史・仏教福祉、さらに近代史・社会福祉研究のための基礎資料として提供する。

推薦＝長谷川匡俊・室田保夫
体裁＝A5判・上製・総7、556頁
定価＝本体334、000円＋税

中西直樹・髙石史人・菊池正治 著

戦前期仏教社会事業の研究

本書は『戦前期仏教社会事業資料集成』に収録した解題と収録内容を一冊にまとめたものである。

体裁＝A5判・上製・168頁
定価＝本体2、500円＋税

Why I came to Zen Buddhism

A talk given by Mrs. Edward W. Everett.

GENTLEMEN:

This is my third visit to Japan, and while through the many devoted friends which I have made in this beautiful country of yours' I have come to consider Kyoto as my second home, in reality, of course, I am a stranger to most of you. People, both American and Japanese, are generally curious to know why I come to Japan to study Zen. I suppose the same question has arisen in your minds also,

I am an ordinary, everyday, American woman. I am not an adventuress, not a scholar, not an artist, not a literary person. My life at home is that of the usual American woman of some means, a life which I judge, does not differ much from that of Japanese women in the same situation in society. My main concern is for my husband, my child, my relatives, my friends and my home. But it has for many years seemed to me that most of us live the brief span of years allotted to us between birth and death only half-conscious, only half-awake to what life really is. The first concern of our daily life must, of course, be with material needs; food and drink, clothing and shelter. Without them life itself cannot be maintained. But these a
must b
in life
when
another
and of
which
comes
stand t
a longi
in and
Univers

Some
answer
form a
of beau
the real
bowed
existenc
yearnin
future

創　刊　辭

局長　大村桂巖

吾人將釋迦牟尼教活躍於體驗之上，是即修行菩薩道也，菩薩道者一面爲自修爲向上，一面爲同化爲救濟，前者如釋尊之入山學道，後者如其出山教化是也。

然向上修行不能無視緣起同化之力，又教化救濟若不出夫本有佛性，亦屬無望，故佛之教，菩薩之道是社會的，靈性的，是謂之大乘也。

上，靈要固不待言，即於國際生活上亦屬必須不可缺，
現於東方大日本帝國正最能發揮其本領焉。
會聯思應於時勢之要求興靈敎之興起，對此菩薩道之
而其使命，茲故創設國際佛教通報局，即於本四月創
一號，以與世界大方之青年佛教徒　共同努力於此佛
提進大乘菩薩道之實踐也。
東西，均失平靜，人心不安，彷徨於世相迷惑之境皆
望夫佛人救世現而已。
青年，尊奉大聖釋尊之遺訓，體驗大乘佛教之眞精神
廣與世界之青年佛徒相提携，使教徒個人之人格，復
光明，益增其輝耀，群沾幸福，爲際企望。
「國際佛教通報」之誕生，又不啻等於釋尊之新降誕也，
下諸國之法經，世界人類之法師，佛日其靈，歲益增
其已焉。

滿洲の佛教を語る夕〔概要速記錄〕

主　催　全日本佛教青年會聯盟
日　時　昭和十年四月十八日午後六時から
會　場　小石川傳通會館
出席者　（イロハ順，敬稱略）

稻葉文海	石上習然	磐井宗憲	蜂谷惠晃		
濱田本悠	西岡能圓	神田正法	宮井芳純		
高佐貫長	孫　錆	中島敦之	村上道隆		
野口照清	工藤敏見	來馬琢道	松浦龍鑽		
小林啓善	小林良甫	荒木晉信	淺野研眞		
秋山照仲	澤田宥雄	三原信一	水野梅曉		
酒永孝英	祥雲洪爾				

稻葉　今夕はお忙しい處多數御出席下さいまして有難うございます。先づ滿洲，蒙古，支那で布敎事業等に携つて居られる方々のお集りを願ひました次第で，水野梅曉先生も後でお見えになりますし，吉井澤田小林諸氏もお見えになる筈です。それから特に滿洲公使館の孫氏がお見えにな
の方々に
して，質
と思ひま
視察にお
と思ひま
見えにな
ふ方々の
洩し願ひ
お聞きし
ては夫々
あります

から，一應御芳名だけを順次に御知らせ願ひたいと存じます。

孫　私は實は七時から他へ行かなければなりませんので，其の事を宜しく御願ひ申上げます。只今の滿洲佛教の狀態は，我々の先輩として滿洲に行かれ，色々調べて來られたやうな方が居られる事を承知して居りますので，
くても
お入れて
ひます。
の名前
史的に
縛とい
あるの
世界各
大いに
貸して

第三回汎太平洋佛教青年會大會の展望と滿洲佛教の現狀及將來

稻葉文海

昨年日本に於て開催されたる第二回汎太平洋佛教青年會大會に於ては，次回大會卽ち第三回汎太平洋佛教青年會大會開催地の決定を見ることが出來なかつた。それは主たる參加國であり，汎太平洋佛教青年會聯盟のメンバーたる北米，暹羅，滿洲の代表より夫々自國開催を提案して讓らず，遂にその決定權は擧げて全日本佛教青年聯盟に一任されることになつたのである。爾後一周年過ぎ，漸く且人も之を問題視するに至り，此に本聯盟自の立場を以て之が敎鞭をなさねばならぬ時機に到達したのである。是より先に本年四月，金澤に於ける全聯第五回總會に於ても第三回を暹羅に於て開催すべしといふ議案が提出され，次いで五月の全國理事會に於ても此問題が議せられたのである。その際大村理事長はそれ等に關して滿洲國の實地調査の要あるを說き自らその任に當る意向あることを言明されたので各理事も亦之を贊同したのであつたが，今回その言明に基いて大村理事長に私が隨伴して，去る八月六日より同州一日まで，直接滿洲國に渡つて之が調査視察を遂げたのである。

曩に當光理事も亦如上の要務を帶びて布哇，北米に旅立ちて彼地の實地調査に當つて居り，一方暹羅國に關しては佛教について特別な熱意を持つてをられる同國駐日公使を通じて調査しつゝあるのである。かくてこれ等三國の資料を蒐集攝へた上で，此處に最後の斷案を下すべき順序である。此の問題は單に國際佛教の消長に關するのみならず，廣範なる國交上にも重要な意味を持つものであるから，本部としても充分慎重なる態度を以て臨む必要があるのである。

然して我々の渡滿は單に第三回大會に關して滿洲國の現狀を視るといふに止まらず，更に同國佛教の將來について深き關心を持ち，これについて何等か將來の見透しを得たいといふ意向を持つてゐたのである。率直に云ふならば，現段階に於ける滿洲國佛教そのものが果して第三回大會を指導開催し得る狀態にありや否やは調査を待たずして一應判定のつくものであつて，强ち態と現地に出掛けて調査視察を遂ぐる絕對的必要もあるまいが，然し今後滿洲佛教の發展のために大會開催が絕對に必要とあらば，多少の支障は排除しても開催するだけの決心は持たねばならぬと思ふ。

我が聯盟は曩に駐日滿洲國大使を通じて，「滿洲國に於ける佛教興隆に關する進言書」を張國務總理及び阮文敎

現代支那の佛教事情

早大教授　福井康順

第一　支那現代佛教の特異性

現代の支那佛教事情をお話する前には，どうしても支那の現在の機構を述べるべきであるが，それは先輩に讓つて，こゝには略すこととし，私は支那の現在の狀勢を述べ，殊に，日本に餘り紹介されてゐない，支那現代の思想界が佛教を如何見てゐるかを考へて見たい。

一，支那の現代佛教は日本人に根本的に理解出來ぬものを一，二持つてゐる。支那の寺院では信仰內容が非常に判然してゐないことである。日本では眞宗寺院なら本堂に阿彌陀如來の本尊を飾り，本願寺の末寺で，住職や寺庭はその宗派の信仰や敎養を持ち，それを喜び，理解してゐる。その他の宗も皆さうである。然し，支那では禪寺に禪僧が住持として入らず，然も本山末寺關係が判然としてゐない。しかも横の聯合もなく，同じ宗の寺の聯絡も組合も協調もない。單獨である。支那にも佛教團體もあるが，例へば中國佛教會は寺院の集りでなく，居士の集りで，尙このやうな傾向が强いのである。第一に寺院に思想的立場がなく，寺院間に連絡と結合がないことで，これは我々が支那佛教を考へるのに，第一に念頭に置かねばならぬ。第二に寺院の住職の任免の標準が判然としてゐない。

厝の太宗の建設した閩忠寺は北京にあつて最古であり，職に死んだ敵味方の靈を慰めたと傳へられてゐる名刹であるが，その住職を何人がどういふ標準で命ずるのか解らず，末寺關係も知られない。唯寺は個人の僧の住所になつてゐるにすぎない。日本では寺院は一定の宗派に屬し，その本尊を有し，その敎義を宣布してゐるのであるが，支那の寺院はさうではないのである。ある僧がそこに住み，それらが支那佛教を爲してゐるのである。蔣介石が革命軍を起して北京を占領した時，その閩忠寺に自分の緣故の僧侶を住職に入れ，その僧が又自分の緣故の僧を引いて他の寺院に入れた。張學良が南に入ると元の領內の僧を連れて來て，住職を追ひ出して，その寺に移す。上の爲すこと下之に倣ふで，他の大臣や知事や部將も之を爲すのである。元來支那は中央政府にしても地方官でも，ある地位を得ると，一族と緣故の者でその下の地位を凡て塞ぐ慣であるが，それが佛教寺院にまで及ぶのである。從つて支那の僧には宗派的には何の系統もないのである。從つて太虛が日本に來る時にその團體は彼の一統であつて，名は支那佛教僧侶訪日團であつても，實は太虛の弟子達にすぎない。日本では太虛法師の訪日團を歡迎すれば，佛

資料集・戦時下「日本仏教」の国際交流【編集復刻版】

◉龍谷大学アジア仏教文化研究叢書4

編者

龍谷大学アジア仏教文化研究センター

「戦時下「日本仏教」の国際交流」研究班

中西直樹（代表）・林 行夫・吉永進一・大澤広嗣

推薦

赤松徹眞・楠 淳證

◆第Ⅲ期

中国仏教との提携 全2巻

体裁＝B5判・上製・総740頁

定価＝本体46、000円＋税

ISBN 978-4-8350-7864-9

刊行＝2017年9月

収録内容

＊巻数は第Ⅰ期・第Ⅱ期から継続しています。

第6巻 『国際仏教通報』国際仏教通報局、1巻1号～3巻10号（昭和10年4月～12年11月）

第7巻 『日華仏教』日華仏教学会、1巻1号、1巻2号、1巻5号、2巻1号（昭和11年1月～12年1月）

『支那宗教事情』日華仏教研究会、1号～5号（昭和13年12月～14年8月）

『東亜宗教事情』日華仏教研究会、6号～10号（昭和14年11月～15年7月）

◆第Ⅰ期

汎太平洋仏教青年会大会関係資料 全2巻

体裁＝B5判・上製・総1、008頁

定価＝本体48、000円＋税

ISBN 978-4-8350-7857-1

刊行＝2016年2月

『第一回汎太平洋仏教青年大会並会議紀要』（昭和6年）、『兄弟』2巻2号 仏誕二千五百年紀奉祝・第二回汎太平洋仏青大会紀念号（昭和9年）、『第二回汎太平洋仏教青年会大会紀要』（昭和10年）ほか収録

◆第Ⅱ期

南方仏教圏との交流 全3巻

体裁＝B5判・上製・総1、298頁

定価＝本体72、000円＋税

ISBN 978-4-8350-7860-1

刊行＝2016年10月

『海外仏教事情』1巻1号～10巻4号（国際仏教協会、昭和9年～19年）、『南方仏教青年会会報』1号（昭和16年）、『大東亜建設学徒大会紀要』（昭和18年）ほか収録

◆第Ⅳ期

全日本仏教青年会連盟機関誌『青年仏徒』 全2巻

刊行＝2018年8月予定

表示価格はすべて税別

不二出版
〒113-0023
東京都文京区向丘1-2-12
電話03-3812-4433
ファクシミリ03-3812-4464
振替00160-2-94084